

福井大学病院だより 第15号

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/9286

第15号

2010.5月
発行号

最高・最新の医療を安心と信頼の下で

福井大学病院だより

UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL

□ 病院長あいさつ

大学病院の最近の動き

□ 診療科案内

感染症・膠原病内科のご案内

□ 看護部コーナー

災害に備えるために
看護管理者研修を実施して

□ 新任紹介

□ トピックス

- ・Qスイッチルビレーザのご紹介
- ・ラルス治療について
- ・リニアック放射線治療について

□ 取組案内

- ・子供たちの体と心を支える～小児科の取り組み～
- ・「特殊健診(専門ドック)受付」窓口設置について
- ・「検査待機室」のご紹介
- ・地域医療機関への電子的な情報提供
- ・ケーブルテレビの導入について

□ 病院用語Q&A

□ 患者さんの声ご返事

□ 出来事 □ イベント情報

 福井大学医学部附属病院

Tel.0776-61-3111(代表)

様々な情報が満載です。ホームページもご覧下さい。

<http://www.hosp.u-fukui.ac.jp/>



看護師・竹山 智成(たけやま ともなり)



大学病院の最近の動き

福井大学医学部附属病院長
山口 明夫

で以上に周産期医療体制の機能強化に一役を担っていきます。また昨年11月にはリハビリテーション部に食事の摂取が困難で、飲み込む力が弱くなった患者さんに対して、チーム体制で栄養の取り方を計画して、リハビリや退院後の指導を行う摂食・嚥下部門を設置しました。平成21年度は高精度放射線治療システム、手術支援用ナビゲーターなどの多くの最新医療機器を導入しましたので、地域医療診療拠点としての機能をさらに充実できるものと期待してください。

アメニティに関しましては、医療相談の増加に対応するための患者面談室(5室)と外来手術後の安静や大腸内視鏡検査時の下剤服用後検査までの間に休憩できる検査待機室を新たに設けました。今まで患者さんの声でも改善要求があり、大変ご不便をおかけしていましたが、これからはまだ十分とはいえませんがご不満も少し解消されるのではないかと考えています。さらに外来の照明を新しくして、床の汚れをとりワックスかけをしましたところ、一段と明るい外来になったと患者さんからも好評であります。また病棟には多くの入院患者さんから強い要望がありましたケーブルテレビがこの3月よりようやく導入されました。入院での苦しい闘病生活にあって、少しでも気が休まり、心の癒しになれば幸いです。昨年エレベーターの工事を行っていましたが、ようやく3月中旬に工事も完了して、新しいエレベーターに更新されました。こ



の間患者さんやご家族の皆様には何かとご迷惑をおかけしましたことをお詫びします。

関連病院の先生方には日頃より患者さんの紹介などでは大変お世話になっていますが、連携を密にして診療に少しでもお役に立てればと、この3月より電子媒体により紹介患者さんの診療情報を提供させていただくことになりました。紹介状返書、退院サマリー、画像所見、検査データなどの紹介いただいた患者さんの診療情報を各病院でいながらにしてインターネット経由で閲覧できるようになりましたので、まだ登録されていない方は医療サービス課までご連絡いただければ対応いたします。個人情報保護には万全の体制をとり、今後情報をさらに増やしていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。またこの度医学図書館が広く、新しく、また明るくリニューアルオープンしました。基本コンセプトの一つに附属病院、地域関連病院を中心とした地域医療への情報提供による連携強化を目指すことがあり、閲覧スペース、情報検索コーナーや展示コーナーを設けていますので、地域の医療関係者や患者の皆さんに大いに活用していただくことができるようになりました。平成22年度予算の特別経費としてPET高度医療開発システムが採択されました。高エネルギー医学研究センターとの密接な連携の下で、新しいPET診断薬を高度医療へ展開することにより、先進医療を開発、実践して、特定

機能病院としての役割を果たすべく努力を続けていきます。

この4月には約40名の国家試験を合格した初期研修医と初期研修を終えられた34名の人が専門研修医として各診療科に加わり、ようやく研修義務化で生じたマンパワー不足が徐々に解消されつつあるようです。看護師をはじめとする多くの新人のコメディカルも本院に加わり、これらの人たちは数年後の新病院の中心を担う重要な人材です。今後も福井大学病院で診療を受けたいという皆さんの期待に応えられるように、「最高・最新の医療を安心と信頼の下で」の基本理念を実践していきたいと決意をあらたにしていますので、温かく見守っていただくようお願いいたします。

若葉が目にしみるさわやかな季節となりましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。常日頃より福井大学医学部附属病院へ多大なるご支援をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。福井大学病院を取り巻く状況も毎年変化しているなか、最良の医療を提供できるように病院全体で取り組んでいるところでありますが、昨年から今年にかけて病院にもいくつかの新しい動きがありましたのでご紹介させていただきます。

さてこの4月より診療報酬改定が行われましたが、今回は若干のプラス改訂となり、その重点課題として救急、産科、小児科、外科等の医療の再建と病院勤務医の負担軽減がとりあげられました。これは本院にとりましても追い風となりますが、高度技術を要する手術件数を増やすなど、病院一丸となって一層医療の質を高めていきたいと考えています。今年度は福井県および文科省からの支援を得て、現在の分娩部を改修するとともに、機器の整備を行うことになりました。母体や胎児に対し危険の高い分娩の受け入れを進めて、今ま

感染症・膠原病内科のご案内

感染症・膠原病内科 科長(診療教授)
岩崎 博道

福井大学医学部附属病院 感染症・膠原病内科は、「免疫」と「炎症」という生体反応と向き合う診療科です。「免疫」とは、私たちの体が異物を排除しようとする反応です。また「炎症」とは、免疫がはたらいっている局所で、赤くなったり、腫れたり、熱を帯びたり、痛みが出たりすることです。たとえば、ある種の病原体に感染して熱が出たり、膠原病において関節が痛くなったりする場合があります。当科の診療対象となります。膠原病は、免疫機能に異常が生じ、自分自身の臓器に障害を及ぼすため、自己免疫疾患とも言われています。この様に感染症や膠原病を治癒(病気が治ること)や、寛解(病状を抑え続けること)に導くため、抗生剤のような微生物の増殖を抑える薬剤や、副腎皮質ステロイドのような免疫を調節する薬剤を使用し治療を行うことが、感染症・膠原病内科の最も大切な診療であると考えています。



感染症・膠原病内科のスタッフ

診療体制

感染症や、膠原病は様々な臓器に発症します。そのため、それぞれの臓器の専門医と協力して診療が行われることが多い領域です。また、原因不明の発熱が、感染症や膠原病の一症状なのかもしれないとの相談を受けて、原因を精査することもあります。感染症の診断

が明らかとなれば、どの臓器に、どんな病原体が感染しているかを考慮して、適切な抗微生物薬が選択されます。膠原病については、診断が確定すれば免疫抑制剤を使用した治療を行います。

また、2009年に世界中に広まった新型インフルエンザ(パンデミックH1N1 2009)のように、各診療科をまたがる感染症の問題が発生したときに、当院医療環境制御センター・感染制御部との連携のもと、予防対策を講じたり、時には初期治療に携わることもあります。

当科の特色

1.免疫不全患者に合併する感染症の診断と治療

近年、著明な発展を遂げている癌治療に伴い、免疫不全を呈する方が急増しています。この様な方に合併する日和見感染症(本来病原性の低い病原体による感染症)の診断、治療は当科において最も多く扱う領域です。癌患者にとどまらず、各種臓器移植を受けた方、膠原病に対するステロイド療法を受けている方、糖尿病患者、超高齢者、未熟児なども広い意味での免疫不全者と言えます。免疫不全者に合併する深在性真菌(かび)感染症の血清診断や、新規抗真菌剤を用いた治療は、私たちの研究テーマに含まれます。血液・腫瘍内科と連携して、抗癌剤投与後の白血球減少期には、無菌治療室を積極的に利用し、感染予防にも努めています。

2.エイズおよびHIV感染症の治療

先進国の中でわが国は、世界的に稀な、HIV 感染患者が増加しつつある国です。福井県でも患者数が徐々に増加しています。保健所等との協力により、早期にHIV 感染を診断し、適切な時期に強力な抗ウイルス多剤併用療法(HAART)を開始するよう努めています。抗 HIV 薬の開発は近年著しく、HAART の新しい組み合わせが考案されています。個人の生活状況に応じた治療薬を選択し、飲み忘れのない診療を目指します。平成 20 年度からは、当病院は福井県エイズ治療中核拠点病院として、他の医療機関と連携して県下の HIV 感染患者の診療に当たっています。

3.初期関節リウマチに対する診療

関節リウマチに対する治療は、新しい注射剤である生物学的製剤(抗サイトカイン薬：レミケード、エンブレル、ヒュミラ、アクテムラ等)の出現により劇的に変わり、新時代を迎えたといわれています。関節リウマチの

初期から適切な治療を行うことにより、寛解率の向上、関節破壊の抑止が期待されるため、これまで以上に関節リウマチの早期診断、早期治療が重要となっています。このwindow of opportunity(適切な治療時期)を逃すことのないよう、開業医の先生方とも連携を取りながら、初期関節リウマチの治療を強化していきたいと考えています。

4.院内感染を防止するために

当科では入院されている方、外来に通う方、および病院で働く職員それぞれの健康を守るため、院内感染の発生を未然に防止することを目指し、医療環境制御センター・感染制御部と協力して様々な活動に参加しています。さらに、院内外より具体的な病原体に対する、感染対策についての相談を受け付けています。現在は感染制御部のICT(インフェクション・コントロール・チーム)メンバーに加わり、週に1度の院内感染対策ラウンドに赴いています。



院内感染対策パトロール(ICT感染症ラウンド)風景

地域医療の中核拠点としての役割

感染症は、それぞれの臓器に、様々な病原体が感染して、おきる病気です。これまでは、感染症の診断・治療は、全ての診療科の先生方の判断で行われてきました。しかし、近年では、エイズが増えてきたことや、強力な癌治療を受けている方に代表されるように、感染症にかかりやすい人が増えている時代でもあるため、健康な人には感染しにくい病原体にも目を配る必要があります。また、抗菌剤が効かない、いわゆる耐性菌の増加も懸念されています。この様な問題への対応のため、当診療科は、入院中の患者さん全体に対して目をむける立場であるとも考えています。福井県内でも、新型インフルエンザのような社会に大きな影響を与える感染症への対策ネットワークにも積極的に参画し、他の病院との連携を取りつつ役割を果たしています。

災害に備えるために 看護管理者研修を 実施して

副看護部長 早川 美津江

国内国外を問わず大災害が頻発し、国内では2004年新潟県中越地震に続き福岡県西方沖地震、宮城県南部地震、2007年3月能登半島地震、7月に新潟県中越沖地震、2008年6月岩手・宮城内陸地震が発生しました。福井県では61年前、1948年6月28日に福井地震(M7.1)が発生し甚大な被害を受けました。

大災害が発生した場合、被災地あるいは被災地周辺に居住する看護職は何らかの形で災害看護活動に従事することが求められます。いつ起こるかかわからない災害に対し、自分を守りながら、患者さんの安全を守る行動がとれるように災害への備え、心構えが必要です。そこで、看護部では医学部看護学科酒井明子教授の熱いメッセージと全面的なバックアップをうけて、平成22年2月27日(土)9:15～17:00看護師長・副看護師長を対象に「いざという時にパニックに陥らないように 病院災害時の行動と看護管理」をテーマに災害看護管理者研修を企画・実施しましたので紹介します。

午前は、新潟県中越地震で被災された小千谷総合病院の元看護部長、現在は医療法人崇徳会法人事務局研修係長である佐藤和美氏に『病院災害発生時の行動と看護管理』と題して講演をして頂きました。地震発生時の画像や「病室の壁が突然落ちてきた」「天井から水が落ち始めた」「もうだめかと“死”を意識した」等の看護師の言葉は真実の重みがありました。佐藤氏は「あっ！地震？大きい！！」と思ったら…①まず自分を守る②運命だと思って冷静になる③揺れている間に周囲を観察する④治まりしだい何をするか考え行



動する(リーダーシップが重要)⑤大きな声で安心できるような声かけをする(冷静になりパニックを防ぐ)等の他、貴重な体験から得られた具体的な行動ポイントを沢山教示して頂きました。

午後は参加者69名が管理者と病棟スタッフに分かれて、6～7人グループで机上シミュレーションを行いました。深夜午前3時、大きな地響きと揺れが発生したという想定で始まり、刻々と変化する状況下で【地震発生後に直ちに行う行動をあげてください】【PHSで連絡が入りました。対応に優先順位(理由)を付けてください】【患者3名を避難させる搬送に必要な準備をあげてください】【子供が心配で帰りたいと希望している夜勤看護師にどのように対処しますか？】【マスコミが押し掛けてきました。望ましい対応を考えましょう等】9つの設問が15分間隔で提示され、参加者全員が頭を突き合わせて、15分の制限時間いっぱいを使い真剣で活発な意見が飛び交いました。

机上シミュレーションは長浜赤十字病院救急救命センター看護係長 金澤豊氏が総括を担当され、酒井明子教授との息もぴったり合い、順調に進行できました。各グループの発表も手際よく、意見交換の内容が目に浮かぶようでした。また、金澤氏より設問につい

てわかりやすい解説とまとめの講義がありました。私たちが取り組むべきこととして①防災対策においての組織体制作り②防災マニュアルの整備・見直し③防災マニュアルに沿った訓練の実施・検証④災害に備えた教育⑤災害時の職員の心身ケア対策⑥地域組織・ボランティアとの連携など災害に備えての組織的な取り組みの必要性が明らかになりました。

ファシリテーターには福井県だけでなく滋賀県から災害看護活動をされている看護師の方々の応援を得て、当院の看護師11名が加わり総勢19名が研修での学びが深まるように支援して頂きました。さらに、記者会見の場面では新聞記者役の方が矢継ぎ早に質問するのを演じていただき、マスコミ対応についても僅かばかり心の準備ができました。福井大学医学部附属病院D-MAT隊員からもコメントを頂き、災害に備えて一緒に考えていこうと決意を新たにしました。

研修アンケートでは「臨場感がありイメージしながら

自分たちの行動を考えることができた。」「危機感を持って真剣に楽しく学びました。」等の他、「家に帰って、早速、災害伝言ダイヤルを子供に教えました」という感想を数日後に聞き、参加者の心に響く、学びの多い研修ができた実感しました。当初、多数の人手と準備を必要とするため、不安が大きかったのですが、酒井明子教授の豊富な人脈と災害看護に取り組む皆様のチームワークの良さで、多職種の方々の協力を得て、無事に終了することができ、関わってくださった皆様に心から感謝申し上げます。

最後にお知らせです。日本災害看護学会第12回年次大会が「看護の専門知識を統合して実践につなげるーいのちを守り いのちを支えるー」をテーマに2010年8月28日(土)・29日(日)の2日間、福井市フェニクス・プラザで開催されます。是非とも多数の方が参加され、災害看護に関して意識を高められることを期待しております。



新任紹介

病院部長 菅原 豊彦

このたび、4月1日付けで病院部長を拝命いたしました菅原豊彦でございます。福井大学病院の発展に微力ではありますが最善を尽くしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。私は、北海道出身ですが、国家公務員として千葉大学に採用になり医学部附属病院勤務を命ぜられ、以来、旭川医科大学病院、筑波大学附属病院、北海道大学病院に勤務し、福井大学病院は五ヶ所目になります。

本院は、昭和58年10月に福井医科大学の附属病院として開院してから26年が経過しており、建物・施設等の老朽化に伴い医療を取り巻く社会情勢の変化や地域社会のニーズなどへの対応が困難な状況にあることから、「最高・最新の医療を安心と信頼の下で」を理念とする病院再整備計画が着々と進行中であり、現在は、平成23年度概算要求に向けて作業を続けているところです。

病院再整備計画は、大学病院の使命と社会的責任を果たすために是非とも必要な計画であり、そのために10年・20年後を見据えた病院づくりが求められています。

私は、この大事な時期に病院部長として就任し、この病院再

整備計画を推進する一人として、私のこれまでの経験を活かし、そして本院が益々発展するよう最善を尽くす所存ですので、皆さまのご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



医療サービス課長 前島 耕志

本年4月1日付けで静岡県三島市にあります国立遺伝学研究所から異動で病院部医療サービス課長として着任しました前島と申します。

私は、静岡県浜松市の出身です。浜松市は、静岡県の西部(遠州地方)に位置し、冬の「遠州のからっ風」が少し辛いですが、温暖な気候で住みやすい地域と言われています。

また、製造業を中心としたものづくりの町なのでBlue Collarの方が多く、少しやんちゃで、事務的な仕事は少し不向きで、競争心もあまり無くのんびりしていますが、浜松人のDNA「やらまいか」を宿す不思議な気質を持ち合わせた人たちの町です。そして1年は「凧揚げ合戦」に始まり「凧揚げ合戦」で終わります。私も生粋の浜松っ子ですのでこのDNAは完全に受け継がれている気がします。

一方、浜名湖で魚を追う漁師でもあります。残念ながらこの地から毎夜浜名湖に出漁することは無理なので、早くこの地のよい魚場を見つけようと、情報収集しているところです。そんな私です。気になりましたらお声をおかけください。

さて、以前、私が勤めていた浜松医科大学は、昨年度新病棟が

完成し新しい環境で、教育・研究・診療が行われています。やはり新しいということは何につけてもいいものです。

福井大学病院も再整備の実現に向けて着々と準備を進めています。将来、真新しい病院で働く自分たちの姿を思い描けばモチベーションもあがります。皆様よろしく申し上げます。



前島家初凧

放射線部技師長 安達 登志樹

装置の導入が予定されています。

「言葉ってどんな日も、心を一つにしてくれる大事なものだよ。やさしさを忘れず、あなたに語りかけていたいどんなときも」これはバラードの歌詞の一部ですが、我々が患者さんと接するときいつも心がけたい一節だと思います。

高い知識と技術はもとより、周囲とコミュニケーションをとり医療人として高いモラルを持った放射線技師の育成を目指し自分自身も成長したいと思っています。



看護部 副看護部長 松村 愛都

自ら動きまわっていくことを心がけ、看護部の目標である「やさしい看護を基盤としたゆるやかでおらかな看護」を実現していきたいと思っています。

これからもますます成長しつづける福井大学医学部附属病院に皆様のご支援をいただくとともに忌憚のないご意見をお寄せいただき、皆様に愛され信頼される病院づくりに微力ながら貢献したいと考えています。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしく願いいたします。



Qスイッチルビーレーザーのご紹介

福井大学医学部感覚運動医学講座 皮膚科学准教授
清原 隆宏

はじめに

平成22年4月から、いわゆる色素性病変に効果的なルビーレーザー治療を開始しています。これまでも患者さんからの要望は多かったのですが、様々な理由により導入が遅れておりました。ご迷惑をお掛けしておりましたが、今後は済生会病院や金沢、京都の施設までご足労をお掛けすることなく、当科で治療出来る環境が整いました。



Qスイッチルビーレーザー IB101

Qスイッチルビーレーザーについて

今回導入したのは、株式会社ニーク社のQスイッチルビーレーザー IB101というモデルです(写真)。レーザーとはLight Amplification by Stimulated Emission of Radiationの頭文字をとった言葉で(LASER)、直訳すると‘誘導放出による光の増幅’という意味です。これだけ聞くと何のことかわけがわかりません。まあ、難しいことは抜きにして、ある理論によって単一波長、均一位相、一定方向に直進する効率的なエネルギーを得る方法のことです。そのエネルギーを利用して、アザなどの治療をするわけです。ルビーレーザーは694nm(1nm=10⁻⁹m)の長さの波長を有するレーザー光で、メラニン色素によく吸収され、ヘモグロビンやコラーゲンにはあまり吸収されないという特徴を有しています。このため、‘青アザ’や‘茶アザ’などの色素性病変において増えているメラニン色素に吸収されてそれらを破壊し、近くの正常な血管(ヘモグロビンを含む)やコラーゲンなどへの影響は少なくすむというわけです。Qスイッチはレーザー光の発生を制御することにより、短時間に一斉にレーザー光を照射し、より深い部分にまでレーザー光が到達することを可能にしたものです。

保険適応について

いくつかの色素性病変において、3ヶ月に1回のルビーレーザー照射の保険適応が認められています。1回の保険点数は2,800点(28,000円)ですので、3割負担の患者さんですと8,400円になります(レーザー照射費のみです)。当科では保険適応疾患に対してのみ保険範囲内のレーザー治療を施行いたします。保険適応外疾患におけるレーザー治療は基本的には施行しませんが、ご希望などがあるようでしたら担当医師にご相談下さい。以下にルビーレーザーの保険適応疾患について説明します。

おわりに

レーザー治療前、治療後においては様々な注意点が 있습니다。担当医師と十分話し合った後に、納得していただいた上で治療を開始することにしています。レーザー治療希望の際には月曜日から金曜日の初診あるいは再診担当医師にその旨をお伝え下さい。レーザー専門外来にご予約の上、治療の説明をさせていただきます。

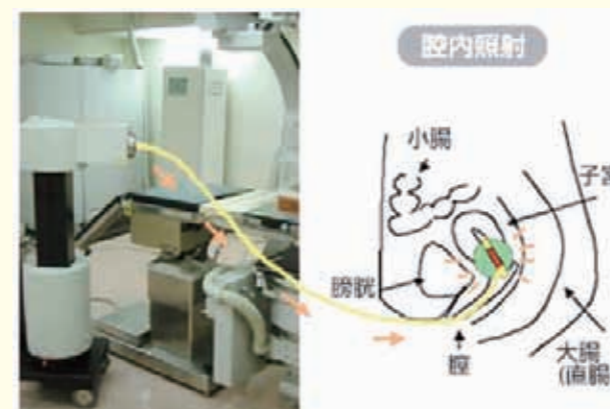
ラルス治療について

産科婦人科
吉田 好雄

子宮頸がんの治療の主体は、手術療法と放射線治療です。日本では、歴史的背景があり、手術療法が積極的に行われてきました。

1990年代に、米国を中心として、進行子宮頸癌の治療成績を向上させる試みの一つとして、放射線治療と化学療法を同時に併用する化学放射線治療のランダム化比較試験が行われました。その結果、米国の5つの試験ではいずれも対照群に比べて化学放射線治療群の生存率が有意に良好でした。また過去20年間に行われた19の臨床試験を集めたメタ・アナリシスの結果、シスプラチンを含む化学療法と放射線治療を同時に併用することで骨盤内再発と遠隔転移は有意に減少し、全生存率を12%改善することが示されました。これらの結果を受けて米国国立がん研究所は、1999年に「進行子宮頸癌に対する治療においては、放射線療法とシスプラチンを主体とする化学療法の同時併用療法を十分に考慮すべきである。」とアナウンスを出しました。以上の流れから日本においても、特に癌が子宮を超えて進展した、進行子宮頸癌に対しては化学放射線治療が行われるようになってきています。

子宮頸がんの放射線治療は、原則として、外部照射(体外照射)と腔内照射を併用して行います。外部照射は、原則として腹背(前後)から対向2門で実施しますが、腔内照射を効率的に実施するため、中央を約4cm幅ほど遮蔽します。照射スケジュールは週5回の単純分割照射で、週間病巣線量分布を10.0Gy前後とします。病巣総線量は40.0Gy以上を必要とします。



腔内照射は、子宮腔内および膣腔内に線源(自然に放射線を出す物質)を直接挿入し、子宮頸部の主病巣に集中的に大線量の照射をする治療法です。実際の方法は、下図のようです。線源は左の機械内に格納されており、リモートコントロールで子宮腔内に挿入されます。このようなシステムをラルス：RALS (Remote After Loading System)と言っています。

従って、ラルス治療とは、難治性腫瘍に対する局所制御を目的とした、高線量率の組織内及び管状器官内用のリモートアフターローディングシステムのことです。平成22年度から、福井大学病院にも、世界標準治療の、イリジウム線源を用いたラルス治療が可能になります。本システムの最大の利点は、イリジウム192の極小線源を用いることにより、婦人科疾患以外にも、従来線源が大きすぎて照射できなかった胆管・気管支さらに組織内への照射が可能になることです。子宮頸がんでは、外部照射と腔内照射を、CTやMRIの画面上に重ね合わせて、最適な線量分布を検討し、照射を行うようになります。

子宮頸癌の標準的放射線治療(1997年子宮頸がん取り扱い規約)を参考に載せます。

病期 (腫瘍の大きさ)	外部照射(Gy)		腔内照射(Gy)	
	全骨盤	中央遮蔽	低線量率 A点/回	高線量率 A点/回
I	(小)	0 40~50	50/4~5	29/5
	(大)	20 30	40/3	23/4
II	(小)	0 45~50	50/4~5	29/5
	(大)	20 30	40/3	23/4
III	(小)	25~30 25~30	30~40/2-3	23/4
	(大)	30~40 20~25	30~40/2-3	15/3~20/4
Nab	40~50	0	20~40/2-3	15/3~20/4
	対症的		対症的	対症的

新たな、リモートアフターローディングシステムの導入により、腫瘍因子だけではなく、合併症の有無や一般状態(患者因子)を十分に検討し、さらに細やかな個別化治療が可能になると思われます。

参考資料
子宮頸がん取り扱い規約 1997年10月
重量子医学センター病院
HP <http://www.nirs.go.jp/hospital/index.shtml>

リニアック放射線治療について

放射線科
塩浦 宏樹

リニアック放射線治療とは

リニアック放射線治療はリニアックという高精度の治療機械を使用し体の外から患部に狙って放射線を照射する方法で、X線または電子線を用いて治療します。そして、がん細胞に放射線を集中的に照射することでがんを殺すという治療です。がんのある臓器を切除しないので、正常な臓器を温存し、機能が保たれる可能性があります。

新しいリニアックの特徴について

IGRTとは

画像誘導放射線治療(IGRT)とは治療を行う際の位置を決める際に従来の治療では皮膚のマークで行っていたのに対し、X線画像を用いて位置を正確に決めて行う治療です。新リニアックでは治療用のX線を用いて画像を撮影し、その画像を使用して治療の位置を自動で修正することが可能となり、従来に比較して格段の正確さで治療を行うことが可能となります。また、治療用X線を使用したCT画像(MV-CBCT)を撮影し、この画像を用いた治療位置の修正を行い、実際の臓器や腫瘍などの位置を正確に合わせることが可能となります。

IMRTとは

強度変調放射線治療(IMRT)と呼ばれる高度な治療は、放射線を照射する各方向からの放射線に強弱をつけて、周囲の重要な組織や臓器の線量を低くし、複雑な形をした病巣の形状に合わせて照射する方法です。マルチリーフコリメータ(多分割絞り)と呼ばれる厚さ0.5cmの遮蔽体をコンピューターで制御して複雑に動かすことにより放射線の強弱を作ります。IMRTにより正常な組織の副作用を軽減することができます。

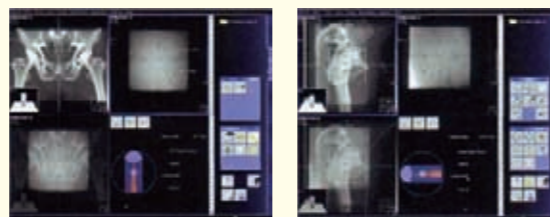
新リニアックではこのIGRTの技術を用いて病巣の正確な位置に合わせて、IMRTの高度治療が可能となります。

IGRT搭載リニアックと同室MDCT

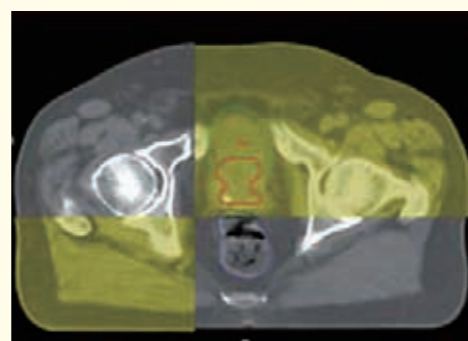
また、平成23年度よりIGRT搭載の新リニアックと同室設置のMDCT(多検出器型の高速度CT)が導入され、ピンポイントに集中的放射線を照射する定位的放射線照射をより高精度に行うことが可能となる予定です。



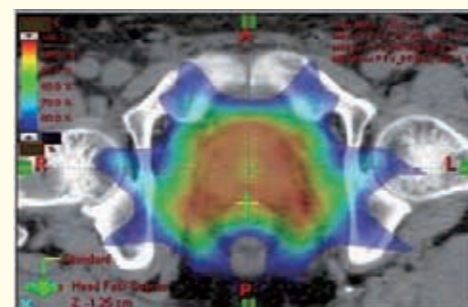
IGRT搭載の新リニアック



ポータルイメージ画像を用いた位置補正



治療用CTを用いた位置補正



前立腺がんに対するIMRT

取組内 子供たちの体と心を支える

～小児科の取り組み～

小児科
畑 郁江



大学病院の「小児科」の役割とは？

皆さんは「小児科医」というと、どのようなイメージを思い浮かべますか？おそらく、子供が熱を出したり、お腹を痛がったりした時に何でもすぐに診てくれる町のお医者さんのようなイメージが多いのではないのでしょうか？しかし、最近では小児医療も急速に進歩し、多くの専門的な知識や技術が必要となってきたため、一般の小児科では対応しきれないことも増えてきました。大学病院は、そのように専門的で高度な診断、治療を行う役割を担っており、福井大学病院の小児科も福井県内全域の小児科からご紹介いただいた患者さんの診療を行っています。

福井大学病院小児科の診療体制

当科では、小児の病気の中でも特に以下に挙げる分野について、専門医による外来および入院診療を行っています。また、専門分野や重症度に限らず、広く患者さんを受け入れています。

- 免疫・アレルギー：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、膠原病など
- 血液悪性腫瘍：貧血、血液の固まりにくい病気、白血病、その他の小児がんなど
- 神経：てんかん、発達障害、心身症、筋肉の病気など
- 代謝・内分泌：低身長、糖尿病、思春期の異常、先天性の代謝異常など
- 新生児：早産・低出生体重児、感染症、その他出生時に異常のみられた児など
- 循環器：川崎病、心臓の雑音、不整脈など

なお、専門分野の外来は、受診予約が必要です。診療を希望される場合は、事前に小児科外来までお問い合わせ下さい。

チームワークが大切です

当院に来られる子供たちは、いくつもの病気を抱えている場合も多く、また治療を行っていく過程で、副作用など様々なことへ対応する必要があるため、一人一人の子供を総合的に診ていくことがとても大切です。当科では、一つの科の中に様々な分野の専門医がおり、子供たちの状態について常に情報交換し、相談し合って診療を進めています。新生児分野においては、産婦人科との定期的な合同カンファレンスなどで連携を密にして、母体と赤ちゃんにとって最適な診療を検討しています。在宅療養指導担当看護師や管理栄養士、理学療法士などとも連携し、生活面についてのきめ細かな相談やリハビリテーションなど、チームワークを大事にした診療を行っています。

子供たちの心も支える

体に病気を持つ子供たちは、心にも多くの不安を抱えてしまうことが多いため、子供たちの心もしっかりと支えてあげることが、治療を行っていく上で重要です。当科では、臨床心理士が、医師と連携して心理カウンセリングを行っています。入院生活においても、医学部の学生ボランティアや院外からのボランティアが、プレイルームで子供たちの遊びの相手や読み聞かせをしたり、クリスマスなど季節の行事を企画運営したりして、少しでも楽しい毎日となるように支援しています。また、長期入院の子供たちにとって、学校から離れることは、とても寂しく不安なことです。当院には入院中の子供たちのための院内学級があり、学業の心配なく治療に専念することが可能です。

福井大学病院の小児科では、子供たちを体と心の両面から支えていくために、今後も常に最良の医療を提供できるように努力していきたいと思っております。

取組案内 「特殊検診(専門ドック)受付」窓口設置について

医療サービス課

平成21年度厚生労働省の経済危機対策「未来への投資に繋がる子育て支援」の一環として、「女性特有のがん推進事業」(*注)が実施されました。

その事業に本院でも対応を行うため、売店向かい側に特殊検診(専門ドック)受付として、平成22年1月4日から窓口対応を開始しました。

なお、この機会に平成17年11月より放射線部で対応を行っていた専門(脳・腫瘍)ドックについてもこの窓口で対応を行うため、検診(健診)業務の集中化を図りました。

今後益々需要が見込まれる、精密検診あるいは健診者等への案内受付窓口として対応の充実を図ってまいります。もし、検診(健診)等で聞いてみたいことがあれば、窓口までご連絡下さい。

(*注)一定の年齢に達した女性に対し、子宮頸がん及び乳がん検診の無料クーポンを配布して検診受診率の向上を図るもの。



専門ドック【スケジュール】 早期発見の治療と予防が目的!!

□ 腫瘍ドック(PET-CT検査)・・・全身のがん細胞の増殖を早期にとらえる



□ 脳ドック(3T-MR検査)・・・脳血管の病気・脳梗塞・脳腫瘍・認知症等の予防



乳がん検診【スケジュール】



最近、お体に不安はありませんか。あなたの不安を安心にかえるお手伝いをさせていただきます。

お問い合わせ先

月曜～金曜 9:00～17:00
特殊検診・専門ドック受付専用
TEL (0776)61-8658・(0776) 61-8550



取組案内 「検査待機室」のご紹介

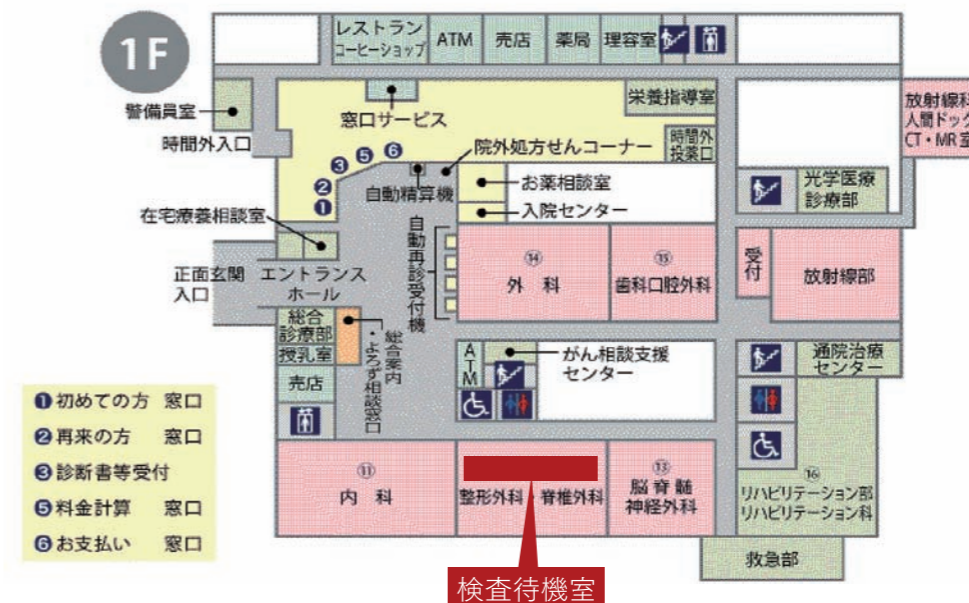
看護師長 廣瀬 好子

大腸内視鏡検査は検査4時間前から経口腸管洗浄剤を飲用し排便を促す等の準備が必要です。今回、「待機場所がなく居場所がない」「検査後しばらく休養して帰宅したい」という患者さんの声から「検査待機室」を設置しました。この「検査待機室」には4台のリクライニングチェアが設置され、カーテンで仕切ってプライバシーを確保しています。また看護師に

連絡できるようナースコールが設置されています。外来の待合室と違い、落ち着いた環境のなかで安心して検査の準備をしていただけます。また検査終了後の休養にもご利用いただけます。(下図参照)

「検査待機室」の概要は以下のとおりです。

- 1 当日予定の検査・処置前後の患者さんの待機休養場所として使用します。
- 2 利用時間は9:00から17:15で、内科外来看護師が担当します。
- 3 対象の患者さんは、
 - 1.大腸内視鏡検査の前処置の準備と検査までの待機患者さん。
 - 2.外来手術後・検査後医師の指示で、1時間から2時間程度休養が必要な患者さん。
 - 3.各科外来で継続的に休養が必要な患者さん。
 - 4.整形外科病棟に入院予定で待機している患者さん。



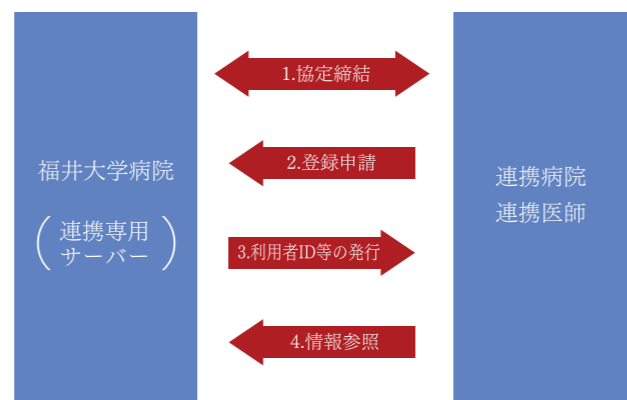
取組案内 地域医療機関への電子的な情報提供

本院では地域連携の利便性を高めるため、関連病院より以前から要望のあった電子的な情報提供や情報交換の実施について院内で検討を重ね、診療情報交換用のシステム開発

を行ってきました。
平成22年3月からシステムの運用が開始され各医療機関に情報を提供できることとなりました。

《本システムの概要》

- 大学病院の電子カルテの中から、紹介患者の診療情報提供に係わる情報を外部の病院からアクセスすることが可能です。
- 各病院はインターネット接続が可能なパソコンから24時間いつでも参照が可能です。
- 病院毎に協定を締結し、各医師毎に利用者登録を行い、利用者ID・パスワードを発行いたします。
- 参照が可能な情報は、紹介状・返書・検査結果・処方内容・画像情報です。



取組案内 ケーブルテレビの導入について

このたびのケーブルテレビの導入により、ご覧いただけるチャンネルが4チャンネル増加することになりました。北陸放送・北陸朝日放送の増加により、今までは、再放送でしか視聴できなかったドラマやバラエティ等の番組がリアルタイムに視聴できる他、お隣石川県の旬な情報や人気スポットの紹介番組等が視聴できます。

また、永平寺町エリアの行政チャンネル並びにコミュニティチャンネルといった地域に密着した情報発信の番組も視聴いただけます。

患者さんには、チャンネル数が多くなったことで選択の幅が広まり、ご満足いただけたと考えております。チャンネルは、ご覧のとおりです。

今後におきましても入院・外来患者さん及び教職員の方々への便宜を図るため、サービス向上に努めてまいりますので、何卒宜しく申し上げます。

(財団法人 福和会)

チャンネル	受信局	
1		行政チャンネル(永平寺エリア)
3		NHK教育
4		北陸朝日放送
5		コミュニティチャンネル
6		北陸放送
9		NHK総合
11		福井放送
12		福井テレビ

Q&A 病院用語

■インフォームド・コンセント 治療法などについて、医師から十分な説明を受け患者が納得した上で同意すること	■頓服 食後など決まった時間ではなく、症状が出たときに薬を飲むこと
■エビデンス 病気にかかった人に実際に使って確かめられた、この医療内容がいいという証拠	■潰瘍 皮膚や粘膜が病気のために深いところまで傷ついた状態
■プライマリーケア 病気にかかった時、最初に受ける基本的で総合的な診療	■狭心症 心臓の筋肉につながる血管の血のめぐりが悪くなり、胸のあたりにしめつけられるような痛みが起る病気
■合併症 ある病気と同時に起こる別の病気、または手術や検査などに引き続いて起こる病気	■敗血症 血液に細菌が入って全身に回り、重い症状になる病気
■副作用 病気を治すために使った薬で起きる、望んでいない作用	■化学療法 薬を使う、がんなどの治療法
■予後 病気のこれからの見通し	■腫瘍マーカー がんかどうかを判定する、一つの目安になる血液検査の値
■腫瘍 細胞が異常に増えて、かたまりになったもの	■生検 病気が疑われるからだの組織の一部を切り取って、顕微鏡などで調べる検査
■MRI 磁気による特別な機械を使って、からだの断面を写す検査	■セカンドオピニオン 主治医とは別の医師に意見を聞くこと
■CT 特別な機械を使う、からだの断面を写すレントゲン検査	

患者さんの声ご返事

大腸内視鏡検査時の控室について

患者さんの声

大腸内視鏡検査の受診時、控室がないのは不便である。

お返事

大腸内視鏡検査の前処置として、下剤(ニフレック)の飲用のための専用の控室が用意されていない点では大変ご迷惑をお掛けしています。本院といたしましては、検討の結果、外来1階のトイレに近い1室を、大腸内視鏡検査を受ける患者さんが前処置後にお休みいただける控室として使用できるように整備しました。貴重なご意見をいただきありがとうございます。

テレビのチャンネルについて

患者さんの声

テレビのチャンネル数が少ない。

お返事

貴重なご意見有難うございます。チャンネルの件につきましては、以前より地上デジタル放送の対応も含め、チャンネル増加への検討を重ねてきた結果、本年3月中旬、通信機器等の改修工事を実施し、地元ケーブルテレビが視聴出来るようになりました。従来よりも、北陸放送や北陸朝日放送など、計4チャンネルが増加いたしましたので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

感謝の言葉について

患者さんの声

2度目の入院です。どの階のスタッフの皆様も話を良く聞いて下さり、まず安心します。医術は、もちろんですが、心の病が一番問題だと感じています。食事はとても薄味ですが、私には丁度良く毎回美味しくいただいております。ありがとうございました。

感謝の言葉について

患者さんの声

私は、今まで、他病院で腹部手術、膀胱手術等を行い、今回、初めて福井大学病院に入院し手術となりましたが、本当に親切で丁寧に対応していただき、誠にありがとうございました。若いお医者さんの熱意、やる気が、体に伝わってきます。また、看護師さんの看病に頭が下がる思いです。今後とも、地域医療の核としてご活躍をお祈りします。入院、手術のお礼として意見を述べましたが、福井県第一番の病院として頑張ってください。

出来事

(平成21年11月～平成22年4月)

11/2(月)13:00～16:15[福井大学医学部附属病院]

平成21年度第2回松岡地区消防訓練

【基礎訓練】避難患者の搬送訓練(外来1階、2階)
【総合訓練】病棟の消防訓練(出火想定場所：東病棟3階)

1月27日(水)19:00～20:00[セミナー室1]

がん診療講習会

【内容】がん薬物療法：「基礎・臨床薬理と副作用」
薬剤部主任 矢野 良一氏

11月7日(土)13:00～17:30[手術部及び臨床大講義室]

外科手術体験キッズセミナー

【内容】福井県内の高校1年生を対象に、手術室にて実際の手術器具や最新のトレーニングマシンを使って手術を体験

2月3日(水)17:30～18:30[臨床大講義室]

医療環境制御センター研修会

【内容】「ヒューマンエラー対策の考え方」(株)協和発酵キリン
「セキュリティと個人情報保護」
医療情報部 山下 芳範氏

11月12日(木)18:30～19:40[白翁会ホール]

がん診療講習会

【内容】「胃癌診断に役立つ外科病理入門」
医療法人慈豊会田中病院 浅田 康行氏

2月12日(金)18:30～19:30[大会議室]

福井大学がん診療講習会

【内容】「がん性疼痛に対する緩和ケアチームの取り組み」
一聖路加国際病院での実践をふまえて
聖路加国際病院 林 章敏氏

11月17日(火)16:00～17:30[ホテルフジタ福井]

第7回 福井大学医学部・関連病院長会議

【内容】「福井大学病院の現状と展望」の説明、高度医療の紹介のほか関連病院長からの要望事項等について意見交換

2月22日(月)19:00～20:00[白翁会ホール]

福井大学がん診療講習会

【内容】「がん温熱療法の基本と臨床」
がん診療推進センター長 片山 寛次氏

11月26日(木)17:30～19:00[白翁会ホール]

診療支援部講演会

【内容】「医療人としてのコミュニケーション」
(株)C-plan代表取締役 佐藤 美智子氏

2月23日(火)17:30～19:00[臨床大講義室]

医療環境制御センター研修会

特別企画「平成21年度医療安全・感染制御の取組」

【内容】医療安全推進川柳及び5S活動優秀部署の発表及び表彰
医療安全5S実践優秀部署の取り組み紹介
「医薬品安全管理の取り組み」
薬剤部 矢野 良一氏
「ME機器の修理・管理について」
ME機器管理部 笠川 哲也氏
「リンクナースの取り組み」
看護部 松山 千夏氏
「SSIサーベイランスのあゆみと将来」
金沢医科大学 森岡 浩一氏

12月2日(水)17:30～19:00[白翁会ホール]

診療支援部感染対策研修会

【内容】「医療ガスの安全な使用法」、「院内の感染対策」
「安全な車椅子からの移動助介」、他

12月9日(水)17:30～19:00[臨床大講義室]

品質ISOに関する講演会(5S活動)

【内容】「全員参加での5S活動への取り組み」
磐田市立総合病院 伊藤 隆氏

12月10日(木)18:00～[臨床大講義室]

NST勉強会

【内容】「嚥下障害の基礎とリハビリテーション」
耳鼻咽喉科 齊藤 寛氏
リハビリテーション部 酒井 仁美氏
看護部 酒井 則子氏

3月4日(木)19:00～20:00[白翁会ホール]

がん診療講習会

【内容】「非小細胞肺がんの化学療法 up to date」
呼吸器外科長 佐々木 正人氏

12月17日(木)19:00～20:00[セミナー室1]

がん診療講習会

【内容】「婦人科がんの治療と最近のトピックス」
産科婦人科 品川 明子氏

3月11日(木)17:30～18:30[臨床大講義室]

薬剤部主催 講演会

【内容】健康被害救済制度に関する講演会
「副作用症例解析の実際」
薬剤部 谷 大輔氏
「医薬品適正使用と副作用救済制度」
薬剤部長 政田 幹夫氏

1月21日(木)17:00～19:00[白翁会ホール]

看護部主催の研修会

【内容】「看護に活かすアロマセラピー」
アロマテックポ株式会社 宮崎 陽子氏
「患者さんに喜ばれる医療人」となるために大切なこと」
株式会社C-Plan代表取締役 佐藤 美智子氏

3月17日(水)16:30～17:00[白翁会ホール]

院内コンサート「檜三味線の夕べ」

【演奏家】野村 深山氏、野村 天山氏
【曲名】禁じられた遊び、ラ・クンパルシータ、帰れソレントへ、津軽じょんから節、ドナウ川のさざなみ、剣の舞、ほか

1月22日(金)17:30～19:00[臨床大講義室]

感染制御部研修会

【内容】「耐性菌感染対策～医師の視点から～」
感染症膠原病内科 池ヶ谷 諭史氏
「薬剤耐性菌について」
検査部 山下 政宣氏
「薬剤耐性菌と抗菌薬のつながり」
薬剤部 塚本 仁氏
「緑膿菌感染対策の取り組み」
看護部 辻岡 里佳氏

3月29日(月)19:00～20:00[白翁会ホール]

がん診療講習会

【内容】「放射線治療の実際」
放射線科副科長 塩浦 宏樹氏

イベント情報

【福井大学公開講座】

2010年4月～2011年3月

テーマ 北陸がんプロフェッショナル養成プログラムインテンシブコース
(e-Learning)

1. 腫瘍薬理学持論
2. 腫瘍放射線医学持論
3. がん緩和医療学持論
4. がん外科学持論
5. 臨床腫瘍学持論
6. 腫瘍病理学持論
7. 臨床栄養学持論
8. 臨床統計学持論
9. 臨床統計学演習

対象 医師・歯科医師・薬剤師・看護師・診療放射線技師
管理栄養士・臨床検査技師

募集人数 特に制限なし

受講料 2,700円(1講座につき)

詳細問い合わせ先

福井大学松岡キャンパス総務室

「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」担当(Tel:0776-61-8186)

6月19日(土)10:00～12:30

テーマ 医学部講演会

場所 アカデミーホール

内容 「救急医療は、今！」救急医学准教授救急部長 木村 哲也 氏
「脳卒中の予防的手術について」脳脊髄神経外科学教授 菊田 健一郎 氏

8月6日(金)・8月20日(金)・8月27日(金) 13:00～15:00

テーマ わくわく物理実験室

場所 松岡キャンパス講義棟2F物理学実習室

7月～9月

テーマ 女性のための健康増進講座

内容 依頼のあった地区や地域に出向く

担当 看護学科臨床看護学講座
波崎 由美子 氏、ほか

【福井大学災害ボランティア講演会】

5月29日(土)10:00～11:30

テーマ 「ハイチは今！～地震発生から3か月 地域に密着して」

場所 総合研究棟 I 2F 総合大2講義室

講師 看護学科臨床看護学教授 酒井 明子 氏

【大学連携リーグ連携企画講座】

5月29日(土)10:00～11:30

テーマ ふくい発！全国地域医療を考える講座

ー住民・行政・医療の三位一体による理想の地域医療ー

6月27日(日) アオッサ6F福井市地域交流プラザ

第3回13:30～15:00

「住民と医療者の奮闘 ～千葉県東金市の場合～」

第4回15:15～16:45

「住民と医療者の奮闘 ～兵庫県丹波市の場合～」

8月28日(土) 福井県国際交流会館2F

第5回13:30～15:00

「住民と医療者の奮闘 ～長崎県平戸市の場合～」

第6回15:15～16:45

「住民と医療者の奮闘 ～福井県高浜町の場合～」

担当 地域プライマリケア講座助教 井階 友貴 氏

【イベント情報に関する問合せ先】

福井大学地域貢献推進センター
(総務部総務課社会連携係)

TEL:0776-27-8060

http://chiiki.ad.u-fukui.ac.jp/

編集後記

五月晴れに明るさを感じるこちよい季節になりました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。本院では、最先端の放射線治療装置や手術支援用ナビゲーションシステムなどを整備し、さらに質の高い医療を提供することが可能となりました。また、県内外の医療圏域や関連病院との連携を強化するとともに、患者サービスの改善等を積極的に行っております。さて、今回の表紙では患者さんに対しいつもさわやかな対応をしている男性看護師を掲載しております。今年度は新たに4名の男性看護師を迎え28名となりました。体力があって頼

りがいがあるというだけでなく、男性の患者さんから相談しやすい存在だという声が聞かれています。なお、広報室では、この「病院だより」を次回発行分から内容を新たにし、これまで以上に皆様に最新の情報及び現状等を周知・提供したいと思ひ、リニューアル版を発行する予定をしております。これからも、『最高・最新の医療を安心と信頼の下で』の基本理念のもと、病院内外へ、情報を発信していきたいと思っておりますので、ご意見・ご希望などがありましたら、お寄せ下さい。よろしくお願ひいたします。 広報室

福井大学医学部附属病院 広報委員会

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

広報に関するご意見、ご要望をお寄せください。

TEL 0776-61-8615

Email bkoho@ml.ccns.u-fukui.ac.jp

ISO9001
認証登録証

登録日
2003年9月10日



FS77921/ISO9001

「ISO」は、国際標準化機構(International Organization for Standardization)の略称です。福井大学医学部附属病院では、「医療サービスの提供」について、「品質保証の仕組みの国際的な標準規格」に基づく認証を受け、「透明性・立証性・公平性・信頼性」に対する継続的な取り組みを通じて、患者様に安心して満足のいく医療を提供しています。